

平成 25 年度水道事業会計予算概要

1 基本方針

水道事業では、昭和 40 年代から 50 年代にかけて建設した多くの水道施設の老朽化が進み、この老朽施設の大規模更新や耐震化対策等の強化が不可欠となっています。また、多様化する市民ニーズを反映したサービス水準の向上も必要となってきています。

一方、これら事業の財源となる水道料金収入は近年減少傾向にあり、財源の確保が課題となっています。

このような状況から、現行水道料金を維持しつつ、より一層の経営基盤の強化を図るため、平成 22 年度に策定した「さいたま市水道事業中期経営計画(平成 23 年度～27 年度)」に基づき、効率的な事業運営に努めていきます。

2 平成 25 年度の主な取組

(1) 水道施設整備事業

重要なライフラインとしての効率的かつ安定的な給水を確保するため、老朽水道管の更新事業を中心とした水道施設整備を計画的に推進します。

- ・ 水道施設整備事業
 - (1) 地下水源整備事業
 - (2) 拠点施設整備事業
 - (3) 配水ブロック整備事業
 - (4) 配水支管整備事業
 - (5) 老朽管更新事業
 - (6) 耐震化事業

(単位:百万円)

	平成 25 年度	平成 24 年度	対前年度	
			増減額	増減率(%)
水道施設整備事業	8,693	8,429	264	3.1

(2) クレジットカード決済制度の導入

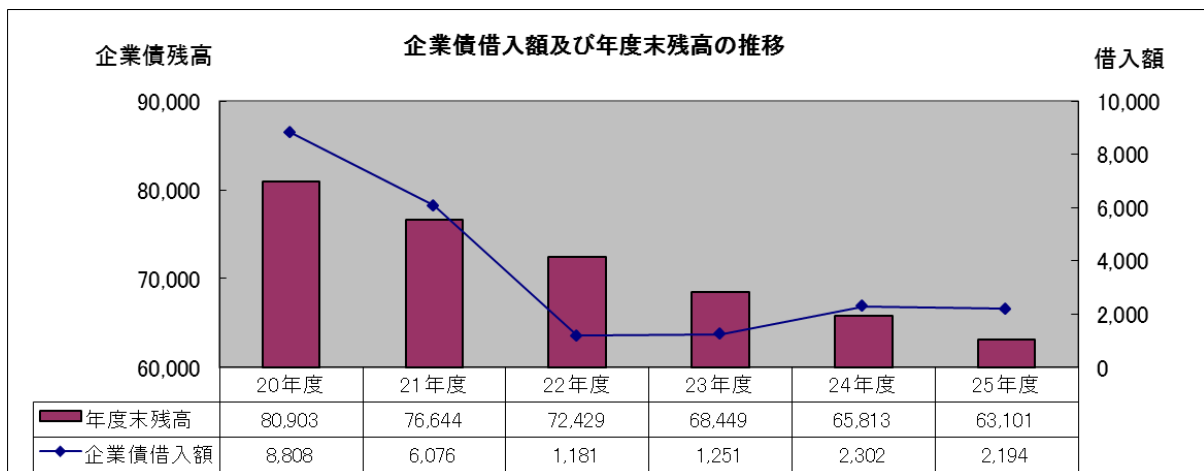
さいたま市公金収納オンライン化基本方針に沿って、上下水道料金のクレジットカード決済制度を導入し、お客様サービスの向上を図ります。

(3) 経営健全化の推進

■ 借入企業債残高の縮減

将来における元利償還金を軽減し、健全財政を維持していくため、できるだけ企業債の借入れを抑制し、自己財源を充てることで企業債残高の縮減を図ります。

(単位:百万円)



※ 企業債借入額には、繰上償還に伴う額(H20 年度 7,230 百万円、H21 年度 4,940 百万円)を含む。

■ 既存事業の見直しによるコスト削減

既存事業の執行方法等を見直しを行い、更なる事業経営の効率化に努めることで、支出の削減を図ります。

3 予算規模

(1) 業務の予定量

		平成 25 年度	平成 24 年度	増減
給水件数	件	568,986	566,092	2,894
年間総給水量	m ³	132,796,250	134,679,250	▲1,883,000
一日平均給水量	m ³	363,825	368,984	▲5,159

(2) 予算の状況

■ 水道水をお届けするための予算(消費税込み)

(単位:千円)

	平成 25 年度	平成 24 年度	増減
収益的収入	31,198,451	31,361,102	▲162,651
収益的支出	26,855,057	27,141,074	▲286,017

■ 施設を整備するための予算(消費税込み)

(単位:千円)

	平成 25 年度	平成 24 年度	増減
資本的収入	4,105,688	3,974,513	131,175
資本的支出	17,633,834	16,864,506	769,328

※ なお、収支の不足額は、内部留保されている資金(減価償却費などの現金支出をとみなわないもの)などで補てんします。

※ 平成24年度欄は、当初予算額